

米国カリフォルニア州 バレンシアオレンジの出荷は早期終了へ

[FreshPlaza 2025年9月8日](#)

カリフォルニア州のバレンシアオレンジの出荷シーズンは、早期に終了しつつある。キングスリバー集出荷会社(8代続く家族経営の生産・梱包・出荷業者)のジェシー・シルバ氏は、「業界内の複数の業者が収穫を終えつつあり、今後数週間でさらに増えると見込んでいる。弊社では自らのペースで進めている」と述べた。

同社はカリフォルニア州産の果実に加え、果汁用、業務用及び小売用の契約に対応するためチリ産ネーブルの輸入も行っている。チリ産オレンジの輸入は7月の第1週または第2週に始まり、10月末まで続く。

需要については、全般的に良好である。シルバ氏は「この輸入シーズンは関税の影響で興味深いものとなった。関税は東海岸における果実の販売価格及び供給に影響を及ぼした」と述べ、チリ産も米国の関税の影響を受けたと指摘した。同時に、南アフリカの輸出業者が関税の発動に先立って果実を出荷したことから、今年の夏の同国産柑橘類の入荷期間は短かった。

価格の上昇 現在の価格は上昇傾向にある。シルバ氏は「10ドル台後半から20ドル台半ばだった価格が、現在は30ドル台に近づいている」と述べ、同社では主に計画的な契約販売を行っていると説明した。同氏はまた、「年によっては40ドルに達することもあるが、今年そこまで上がるかどうかは分からない」と語った。

今後の見通しとしては、チリ産の輸入が終息し始める10月にカリフォルニア州産ネーブルのシーズンが始まるとの楽観的な見方があり、シルバ氏は「非常に品質の良い果実を期待している」と述べた。

例年、シーズン初期には上級品(Fancy-grade)の果実が多く、サイズは平均的またはやや小さめであり、これらは主に業務用に契約販売される。シルバ氏は、「カリフォルニア州では今年、全体的に着果量が少ないため果実は大きくなる見込みだ。また、業界全体でアザミウマの被害が若干見られ、防除を行っていない生産者はより大きな影響を受ける可能性がある」と述べた。その結果、中級品(Choice-grade)の果実が増える見通しであり、上級品が多く、中級品が少なかった2024-25年度のオレンジの作柄とは対照的である。

執筆者: アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

韓国 2025年産ナシのベトナム向け出荷を開始

[FreshPlaza 2025年9月9日](#)

韓国の全北^{チョンブク}農業協同組合(全羅北道)及び全州^{チョンジュ}園芸農業協同組合(全羅北道全州市)は、2025年産のナシをベトナム向けに初出荷した。初回出荷量は16.2トンで、約6千万ウォン(4万3千ドル)相当であった。これらの果実はホーチミン市、ハノイ市等、ベトナムの主要都市で販売される予定である。

ベトナムの気候は一般的にナシの栽培に適していないが、ライチャウ省、ラオカイ省、ハザン省*、カオバン省など北部山岳地域の一部では、冷涼な気候により小規模な生産が可能である。ただし、現地産のナシは通常小玉で、収穫期間は2カ月程度と短く、冷蔵設備がないため保存期間が限られている。

全北、全州の両協同組合は、自らのナシをベトナム市場において高級品として定着させることを目指している。輸出業者らは、東南アジア市場で主流となっている価格の安い中国産のナシとの差別化を図るため、果実の甘さ、新鮮さ、安全基準への適合性を強調している。今後、東南アジア域内の他国への出荷拡大も計画されており、今シーズン中にタイ、インドネシア等の市場へ約200トンのナシを輸出する予定である。

全州園芸農業協同組合のイム・チョンギョン組合長は、今回の輸出は生産者と協同組合が一丸となった取り組みの成果であると述べた。さらに、中国産のナシとの競争がある中でも、全北産のナシは品質及び安全性の面で東南アジア市場における地位を維持できると期待していると付言した。同氏はまた、輸出拡大と並行して、両協同組合は持続可能な農業と農村地域の発展に引き続き注力していると述べた。

出典: Vietnam+

(*: ハザン省は2025年7月にトゥエンクアン省に統合されました。)